
ブラコン妹が反抗期起こしたらこうなった。

混沌太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラコン妹が反抗期起こしたらこうなった。

【Nコード】

N9249X

【作者名】

混沌太郎

【あらすじ】

さて、想像してみよう。

兄離れできない超絶ブラコンな妹が反抗期を起こした。
どうなると思う・・・？

答えは《カオス》だ。

妹がカオス。(前書き)

ノリと気合で書いてます。

元ネタは昔どっかで見ただけのメロデー。

辛辣なコメ見たらこの世から卒業しちゃうかも。

妹がカオス。

とりあえず、僕、高木 愁人から言うことがある。

これは面白くもくそも無いただ少しヲタの僕と最近反抗期に入った超が付くほどのブラコン妹の日常だ。

もう一度言う。

どっかのヲノベみたい魔法も竜もお姫様も出てこない、ただの僕と妹の日常のニコマである。
過度な期待はしないで欲しい。

○10月21日 朝

「ふあああ、昨日はギルメンと超ポップの穴場に籠ってレベル上げたから全然眠れなかったなあ」

僕は高木 愁人、17歳、そこらへんに転がってそんな普通のヲタだ。

昨日はギルド【馬鹿ばっかww】のネット友とレベル上げに勤しんで一睡も出来なかった。

ま、おかげで97になったけど。

もうすぐでカンストだ。やったね。

「……」ばたん。

そして、今部屋から無言で出てきたのは僕の妹、高木 朱莉、14歳
絶賛反抗期中……、なのだが、少しおかしいのである。
説明しても伝わらないと思うからとりあえず見ていてくれ。

「おはよう。朱莉」

「朝から話しかけないでよ！むらむらしちゃついでしょ！」

「……………あ、はい」

まあ、こんな感じだ。

反抗期起こす前は極度のブラコン。

反抗期を起こしてからはとつてもカオス。

ちなみに僕らの両親は海外を飛び回っている。

まあ、生活できるお金は振り込んでくれるから問題ないけど。

そして、すこし時間が経ってから。

「今日の朝ごはんはパンかごはんどっちがいい？」

「はあ？なんで聞くわけ？意味わかんない。いちいちそんなことで話しかけないでって朝にも言ったじゃん。だいたい、なんでそんなに気遣ってくれんの？嬉しくて朝から濡れそうなんだけどどうしてくれんの？」

「え……………」

あら、やだ、何この娘、こわいんだけど……………。

「あー、えと、じゃあ、ごはんがいいよね……………」

「兄貴の好きなようにすれば」

ふう……………。脅威は去ったようだ。

とりあえず、

「ご飯食べなきゃ。」

そして、もくもくと朝ごはんを食べた後、朱莉の学校は遠いので早めに出る。

「朱莉く、いつてらっしゅい」

「……はあ、はあ、はあ……」

「……」

僕は何も見えてないし、聞いてません。

朱莉が「いつてらっしゅい」で興奮なんてしているはずが無いしそんな事考えたくも無いです。

……まあ、それはスルーとして。

僕も学校行きますか……。

妹がカオス。(後書き)

まあ、ゆるく楽しんでください。

悪友までカオス。(前書き)

ノリと気合で書いてます。

元ネタは昔どっかでみたコメディー。

辛辣なコメ見たらこの世から卒業しちゃうかも。

読者の「おもしろい」を糧に暇を作って執筆。

忙しいから更新は遅めです。

悪友までカオス。

とりあえず、家を出た。

・・・む。この気配・・・来るな・・・。

そこじゃああああ!!食らえあっぱー!!

「ぐぐぶげがあああ!!」

また詰まらぬ物をアパって(謎)しまったぜ・・・、ふう。

まあ、ゴキブリでも踏んだと思って学校い

「待てやああああ!!」

ちっ。さっさと逝けよ。

ちなみに、温厚でゆるゆるな僕をここまで豹変させるコイツの名前

は北村^{きたむら} 信吾^{しんご}。

あだ名はB A K A。

後ろでなんかごちゃごちゃ言ってるが無視だ、無視。

「おいこら無視すんな!」

「ンだよ。朝から馬鹿の顔拝むなんて・・・、ほんつと今日はツイてないな・・・」

「おいこら俺をディスるのもそこまでにしとけ、泣くぞ?信吾さん

泣いちゃっぞぞ?」

「……きも……」

「やめて!真顔で若干引きながら」きも「とかやめて!この世から卒業したくなっちゃう!」

「なーんもきこえんとです。」

無視して電車乗るか……、まだごちやごちや言ってるけど今回はまじで無視だ、僕にボケは向いてない。

あ、電車来た。

うわー、人多いわー、萎えるわー。

……警沢言ったられんか、乗るべ……。

悪友までカオス。(後書き)

まあ、ゆるく楽しんでください。
短くて、すみません。

平穩の場所・・・なんてある筈も無く。(前書き)

ノリと気合で書いてます。

元ネタは昔どっかでみたコメディー。

辛辣なコメ見たらこの世から卒業しちゃうかも。

読者の「おもしろい」を糧に暇を作って執筆。

忙しいから更新は遅めです。

毎日更新は初期の勢いがある時だけです。

平穩の場所・・・なんてある筈も無く。

学校に着いた、やあ愁人だよ。

学校、それは同級生と楽しく談笑したり、勉学に励んだり。

そんなどこにでもあるような、でもここにしかないような、そんな曖昧な日常を形成する場所。

学校は僕の唯一の憩いの場・・・

とでも言おうと思ったか。

学校過ぎづらいです！理由？

かなり要約して説明するからよく耳をかつぱじって聞いて欲しい。そうだ、リラックサして聞いてくれ。

さあ？言うぞ？覚悟はいいな？

では・・・

「クラス全員が見てる中で好きな人に告白して完膚なきまでに振られましたあwwww(泣)」

はは、笑えよ。笑え。

いや、むしろ笑ってくださいお願いします。

いや、切実に、下手に同情されるとまじで死にたくなるから。

で、僕は今、教室の前に立っている。

さて、なけなしの勇気を使い果たして入るか・・・。

ガラッ。

「・・・・・・・・・・・・・・・・は、はるーお？」

うわあああああああ！！何故英語！！僕の馬鹿！B A K A
！！

「・・・・・・・・・・・・・・・・シーン

案の定クラスは沈黙に包まれた。

え、ちょっとやめてよ、そういうの。

馬鹿の北村でさえ無反応。

よし、殺そう。

と、それはおいといて、もういや、諦めよう、自分の席に座ろう。

そして僕の席の前は僕を振った女の子ってね。
ははは。

・・・・・・・・笑えねえわ、リアルに、切実に・・・・。

もう、いい。

寝よう。

放課後まで寝てやる！

絶対！絶対だかな！

平穩の場所・・・なんてある筈も無く。(後書き)

まあ、ゆるく楽しんでください。
短くて、すみません。

はぁ・・・、どっしてこうなったの。(前書き)

ノリと気合で書いてます。

元ネタは昔どっかでみたコメディー。

辛辣なコメ見たらこの世から卒業しちゃうかも。

読者の「おもしろい」を糧に暇を作って執筆。

忙しいから更新は遅めです。

そして今回は短いです。

とても短いです。

どれだけ短いかって言ったら作者の手相の金運線とか知能線より短いです。

はあ……、どろしてごろになったの。

皆さん始めまして、私は木下雪と言います。

今日はとても憂鬱。

何故だ？って？

好きな人に告白されたのはいいものの、

「付き合って」を買い物に付き合っつてと勘違いしていたんです。

そして運の悪いことにその日はたまたま急用があつて、断つちゃつたんですよね。

はあ……。

なんで私はこんなに馬鹿なんでしょう。

あ、愁人くんが来ました。

目を合わせてくれません。悲しいです。

自分の席まで来て座るとすぐに眠る体勢に……。

どうやって誤解を解きましようか……。

はぁ・・・、やっついでやっついたので。(後書き)

短くてごめんなさい。

リアルで仕事が忙しいもので・・・。

妹が怖いお（、、、）（前書き）

ノリと気合で書いてます。

元ネタは昔どっかでみたコメディー。

辛辣なコメ見たらこの世から卒業しちゃうかも。

文才がないのは仕様。

短いのも仕様。

来世から頑張る。

読者の「おもしろい」を糧に暇を作って執筆。
忙しいから更新は遅めです。

妹が怖いお（．．．）

○10月21日 放課後

気付いたら放課後。やあ、皆大好き、愁人だよ。
皆は僕に気を使って起こさなかったみたいだね！
ははっ！（某ネズミ風に）

．．．．．ははっ。

．．．．．帰るか。

（．．．．．）（．．．．．）（．．．．．）（．．．．．）
（．．．．．）（．．．．．）（．．．．．）（．．．．．）

そんなこんなで帰宅。

「くんかくんか!!」

え…………。

ちょっと……、嫌な予感しかない……。

俺の部屋の扉が開いている…………だと…………!?

そーっと覗いてみるか。

………………………………………。ばたん。

はは、疲れてるんだらうなきつと。朱莉が僕のシャツをくんかくんかしてる幻なんて…………、ありそつでこわいわ。

つか、現実で起こってるわ。

扉が閉まった音に気付いて朱莉が扉を開けて出てくる。

「……………見た？」

「……………いえす。」

「このバカ兄貴！いつペン死ね！さしてやる！そして愛してる！」

「えー。横暴じゃないですか朱莉様……………。……………。……………。そして、最後のはあえてスルーで。」

「るっさい！大体兄貴が兄貴の匂いのついたシャツを放置するから悪いんでしょ！死ね！ごきぶりほいほいにほいほいされるゴキブリの気分を味わったわ！」

「たとえば酷い…………。」

「うるさいうるさいうるさい！！もうこうなったら兄貴のパンツ盗んでやるんだから！」

そう捨てゼリフを残して朱莉は自分の部屋に消えた。

妹が怖いお)・)・)・) (後書き)

朱莉の変態さが分かってもらえたでしょうか。

まあ、それはおいといて。

読者の中でも「容姿は？」と思った方が多いのではないかと思ったのですが。

容姿はあえて書きません。

読者様のご想像で好きなキャラクターに補完してお楽しみください。べっ、別に、めんどくさいから、とかじゃないんだからねっ！！) このツンデレは需要あるんだろうか。(

ちなみに文章中の「)・)・)・) (」の大群は区切りを意味しますです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9249x/>

ブラコン妹が反抗期起こしたらこうなった。

2011年12月20日01時48分発行